

(様式 1)

# 自己評価票

## 【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。

サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。

この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 6 月 30 日									
法人名	有限会社すずらん									
代表者(理事長)名	代表取締役 平出 幸雄									
介護保険事業所番号	2	7	7	0	7	0	0	8	0	1
サービスの種類	① 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	② 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホーム花すいせん									
事業所所在地	河内長野市木戸西町一丁目9番51号									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者 (氏名) 岩本 美三子									
連絡先電話番号	0721-56-1283									

## 自己評価項目構成

### ・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### ・サービスの成果に関する項目

## 【自己評価の実施方法】

運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業員と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、市や地域のグループホーム交流会等に参加し、グループホームでの生活を説明する。	会議を定期的に行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を踏まえた介護計画書に基づくサービスを提供することや、常に申し送りを充実させている。	常に軌道修正できるような情報収集を日々の申し送りの充実に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は来訪者の誰もが目に付きやすい玄関にも掲げている。音楽療法ボランティアの方や家族様への便り、ご近所の方々とのお話などで十分ご理解いただいている。	ピアノでの音楽療法、大正琴、踊り等近所の方に来ていただいている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	二階以上が一般住居なので、挨拶や会話、散歩等で親交を深めている。	近所の子供達が、朝の体操に参加してくれる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭り等の行事に参加し、交流に努めている。	秋の祭り等は、順路としてホーム前を入れていただき、前で利用者様に一緒に触れさせていただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々と一緒に参加できる行事等の情報を聞いたりしている。		職員の状況や力を加味し、参加しやすい行事等から取組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、業務内容に対する評価は実施し、外部評価については評価内容を職員全員が理解し、改善すべき点は話し合っており取り組んでいる。		日々の仕事の反省や気づきをスタッフ全員で話し合う機会を多く作っている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様に参加していただけるよう努力している。		運営推進会議では、事業者側からの報告になっているので、会議での内容充実に取り組んでいきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアネットワーク会議や各部会に必ず参加している。		2ヶ月ごとに会議に参加している。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員について学ぶ機会を設けていない、また、現在は先の制度対象者は入居していないので実施していない。		制度を熟知している職員が居るので、制度対象者が入居されれば、実践を通して学ぶ機会を設けていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が職場内研修において、水平展開して防止に努めている。		施設では絶対にあってはならないこととして意識徹底している。不適切な言動等ないか、お互いに注意し合い、防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	実施している。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常にコミュニケーションを図り、入居者の意見や不満等を聞くように努めている。また、家族様へも連絡し、話しやすい環境づくりを行い、問題解決に取り組んでいる。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	訪問時には必ず日常の様子を伝え、ホームのお便り等でも報告している。病変時にはその都度報告している。訪問の少ない家族様には個別に便りしている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見袋等を設置し、ご家族様からの意見は必ず受け止め、カンファレンス会議にかけたり、職員ミーティングでも全員で共有している。	意見を言っただきやすい雰囲気作りのために、催し物等で更に交流を深め、気軽に発言していただける関係づくりを今以上に構築していく。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング等で職員各々一人ずつ意見を発言する機会を設け、その議題についてはディスカッションし、皆の意思統一のもと、決定されている。議事録を設け、再確認することとしている。	適宜ミーティングも実施し、申し送りも今以上に充実し、情報の共有を今以上に構築していく。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事内容や緊急時の対応の際には、職員の確保に努め、常に利用者に合わせて勤務体系を取っている。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>不必要な異動は行っていない。職員の退職については最低1ヶ月前に申し出るようにして、スムーズな職員配置が出来ている。</p>		
<b>5.人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社外研修に積極的に参加してもらっている。また、社内研修も報告や勉強会等行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に数回のグループホーム交流会や研修会に参加し、情報交換を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会や新年会、その都度の飲みニケーション等や、健診等も積極的に企画、実施している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>社内、社外研修に積極的に参加させるよう勧め、費用等会社負担である。また、各自役割があり、責任を持って取り組むことにより向上心がある。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の面接時より本人様よりしっかり要望を聞き取る。本人様より困難な場合、家族様より情報を得ている。又、入所までに入所シートをお渡ししている。</p>	<p>常に利用者様に寄り添い、話が出来る雰囲気作りを今以上に築いていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来所時等に必ず話す機会を作り、家族様のニーズの変化も含め、十分な聞き取りを行い、意見を需要、援助内容に反映するように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>連絡があれば迅速に対応を取り、当施設の対象となりうるか否かの判断と説明を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所を経験していただき、ご本人様、ご家族様双方納得された上での契約としている。また、どんなことでもご家族様と相談して行うようにしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の方々を家族のように思い、過去の生活歴より活躍の場を提供し、喜怒哀楽を共にする姿勢で援助を行っている。</p>	<p>常に利用者側に立って行う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の方々とも連絡をとり、家族の方と同じ方向性を持ち、入居者の方々を支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族と入居者の方々との良きパイプ役となり、互いの意見に耳を傾けている。互いの立場を理解し、支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔遊んでいた場所に行きたいとかの希望があれば、一緒に行けるよう努力する。		家族様の協力も得ながら、友好関係である方達へもホームの行事等に参加していただけるよう招待状を送り、関係が途切れないよう支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂やリビングでの席等にも配慮している。		ホームの各々の場所に椅子を置き、利用者様同士、会話等で関わり合える居場所を作っている。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もお礼の電話等やお手紙を頂くと、とても感激する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人にどのように生活していきたいか希望を聞き、可能な限り希望に添えるようにスタッフ一同で検討している。</p>	<p>暮らし方の希望がうまく表現できない場合、本人が本当に何を望んでいるか把握するよう努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴、生活環境については、入居情報に基づいて聞き取りを行い、把握に努めている。</p>	<p>昔の話や日々の暮らしの中で、馴染みの暮らし方などを知り、ケアに活かしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>認知症の症状や身体状況に合わせ、支援を行っている。</p>	<p>心身の状態や現状等を毎朝の申し送りや個別介護記録を元に総合的に把握している。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスを行い、必要な関係者と話し合い、意見を反映させ、より良い暮らしをしていただくための介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画を作成したら、本人家族に説明の上、追加、変更がないか確認した後、了承得て、スタッフにも説明し、統一している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアマネジメントにおける一連の作業を実施し、その都度その人にあった介護計画の作成に努めている。状況に応じて適宜計画の見直しを行っている。</p>	<p>様々な変化に素早く、かつ適切に対応し、現状に即した介護計画の作成に努めています。</p>



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や体調管理は、詳細に介護記録に記載し、介護計画の変更にも活用している。		たずさわったスタッフが記入する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人や家族の要望に応じ、食事メニューの変更や個室内の家具の配置の変更等、より快適に過ごして自立しやすい生活を目ざし、柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学生の職場体験等の実習受け入れや、地域からのボランティアも来られ、協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、訪問マッサージや訪問看護を活用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして、地域包括支援センターの職員に参加していただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一の訪問診療で、ドクターより指示を受け、対処している。また、受診希望の医療機関があれば、家族と相談し、迅速に対応している。		ホームドクターとは常に連絡を取れる体制にし、往診日以外でも指示を受け、対処している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日々の生活の中で、変化があればスタッフ全員とドクターと話し合い、適切な処置の支援をしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターの看護師の往診や訪看の看護師と相談しながら、日常の健康管理の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合、必ず病院に訪問し、本人や家族様と連絡を密にしている。また、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、本人、家族、医師等と何度も話し合い、方針をしっかり固め、職員全員で共有する。看取りの方針を作成し、必ず同意をもらうことにしている。		勉強会等を行い、スタッフ全員が共有できるよう、今以上に築きたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期においても、個人の人間としての尊厳を守るため、チーム一丸となって支援に取り組んでいる。介護記録をきちんと記入し、ドクターとも相談を行い、それに基づいて取り組んでいく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	住まいや生活の仕方や考え方を大事にしている。		馴染みの家具や装飾品、こだわりのある物など持 ち込まれている。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	入居者個々の価値観や生活歴を大切に、個人 にふさわしい言葉掛けや、声のトーンにも気をつ け、対応している。		個人記録は事務所保管とし、居宅やトイレにはい るときは必ず声かけする。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	入居者の思いを優先に聞き、納得されない場合は 他の方法を考えるよう支援している。		常に笑顔での対応に心がける。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	入居者の希望を優先するよう支援している。		入居者個人のペースを保てるよう心がけてい る。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望 む店に行けるように努めている	理美容は職員、近所の美容師が来所し、本人の希 望を聞き、その都度対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方が十分に力を発揮できるよう、スタッフが見守り出来る能力の継続に努めている。同じテーブルで、職員も一緒に同じ物を頂いている。		使い慣れた湯飲み、箸などを使用し、会話を交え、楽しい雰囲気ですべて食べている。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医との連携を取りながら、可能な限り本人の望むような支援が出来るようにしている。10時と3時のおやつも毎日、飲み物は本人の望む物を楽しんでいる。		楽しい雰囲気作りと、手作りに努めている。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中、夜間帯に分け、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うようにし、排泄の失敗へのダメージ軽減に努めている。		スタッフ全員把握している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望やタイミングに合わせて支援している。		必ず声かけや見守りを行う。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中にレクリエーション、散歩等で刺激をもって楽しく過ごしていただき、夜間良眠していただくよう支援している。		良眠出来るよう環境づくりをテレビや音楽等で対応している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味や楽しみごとに合わせて日々の生活を送れるように支援している。		家事仕事、花の水やり、花を摘んで生け花にしたりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり、買い物時等自分で支払いを行ってもらう。来所時に金銭出納帳に承認のサインを頂いている。		買い物時に欲しい物はないですかと必ず声かけしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や健康状態を考え、散歩や買い物の支援をしている。		戸外でおやつ会等行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として毎日行事を行う中で、外出の支援をしている。		漁港等に出かけ、船から揚がる魚等を見て楽しむ。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしている。		年賀状や暑中見舞いを利用者様手作りにて送付している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は来所者に対し常に歓迎の姿勢で迎え入れている。		居心地よく過ごせるよう場所づくりをする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当するか否かをミーティング等で判断し、職員一同身体拘束を行わないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前中は鍵をかけず解放している。午後は入浴等でスタッフが手薄になるので、やむを得ず玄関にうち鍵をかける。出来る限りスタッフが見守り、解放するよう心がけている。		夜間は外からの侵入防止のため、鍵をかける。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者の所在確認を行い、危険防止に努めている。また、自己の全長を見逃さないよう、研修棟を通して取り組んでいる。		スタッフは声を掛け合い、安全確認を行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に応じた対応を行っている。		危険な物はスタッフ間で声を掛け合い、必要に応じて直している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット等を記入し、再発防止に向けて話し合ったりして取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師、ナース、救急病院等の連絡が迅速に対応できるようにマニュアルも作成している。		救命講習等を受けているが、定期的な訓練までには取り組んでいない。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施している。		消防署員立ち会い及び指導の下、訓練は行っているが、定期的は取り組んでいない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p> <p>その都度、ご家族様に現状を説明報告し、理解していただいている。</p>		通院も同行している
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>職員間での情報交換を常に行っている。申し送りノートを活用し、閲覧後は捺印し、情報を確認している。</p>		バイタルチェックを毎日行い、受診時は家族様に必ず連絡している。
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>医師の指示により、内服管理を行っている。薬の用法や用量、副作用については、おくすりカードを所定の位置に保管している。</p>		服薬時は利用者様の名前を声に出して行うようにしている。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>排便チェックを行い、状態に合わせた対応を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後必ず口腔ケアを行い、また定期的な歯科医往診も行っている。</p>		義歯の方は就寝時は外していただき、義歯ケースにて預かりにする
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>食事量チェックと同時に水分量チェックも行っている。</p>		入浴後の水分補給と食事時の水分摂取は、必ず声かけて補給していただく。夜間帯も水分補給のペットボトルを居室に置いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。勉強会等でも取り組み、全員で周知徹底に努めている。		外出した後、必ず手洗い、うがいを施行している。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に消毒などを行い、衛生管理に努めている。(まな板とフキンは毎日ハイターにて消毒を行っている)		必ず冷蔵庫保存し、買い物も毎日している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には季節の草花を植え、訪問しやすい環境づくりを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りを入居者の方々と作成し、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所、場所に椅子を置き、利用者が自分の居場所に活用できている。		ホームに死角が無く、利用者の居場所が確認できる。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	危険を伴わない限り、ご本人の希望に沿うような 居室作りに努めている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝の換気は必ず行い、体感に応じて温度調節を心 がけている。各居室の環境整備も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	要所に手すりを設置している。バリアフリーにし て自立に向けた支援を行っている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者各々に合わせて、各案内を分かるように工 夫して、自立支援を行っている。		
87 建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外で、おやつ時にはおやつ会したり、パー ベキュー等も行っている。		空間を利用して、金魚を飼育して楽しんでいただ いたり、四季を感じてもらえる草花や野菜も植え ている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が、日々穏やかにその人らしく暮らせるよう支援している。また、情報の共有(統一化)を職員に周知徹底してより良いケアに結びつけている。